

【担当教員】

永野 建二郎・松田 真希子

【教員室または連絡先】

Nihongo Junbishitsu TEL 8300
matsuda@vos.nagaokaut.ac.jp
knaga@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

- 1) To develop the ability to communicate in daily life
- 2) To develop the ability to study the majors of each student by learning academic and technical Japanese
- 3) To develop the ability to learn Japanese independently.
- 4) To develop the ability to assimilate Japanese community and university through experiencing a variety of cultural and social programs

【授業キーワード】

elementary level, survival Japanese

【授業内容及び授業方法】

This class is for the foreign students who have no or some proficiency of Japanese. The students will study Hiragana & Katakana first, and will develop communicative ability through learning basic Japanese expressions.

【授業項目】

1. hiragana/katakana
2. Introducing oneself, Greetings
3. Daily expressions
4. Describing Daily activities
5. Time expressions
6. Possession, Existence
7. Agreeing and Disagreeing
8. Request, Permission, prohibition
9. Casual conversation
10. Expressions in Other Languages
11. Conditions, reverse conditions
12. Confirmation, Explanation, Information
13. Change of State
14. Opinions, Quotations
15. Exam

【教科書】

Basic Japanese for Students, HAKASE

【参考書】

Quiz 30%
Exam 35% (2 times)

【担当教員】

永野 建二郎・松田 真希子

【教員室または連絡先】

Nihongo Junbishitsu 8300
matsuda@vos.nagaokaut.ac.jp
knaga@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

- (1) To develop the ability to communicate in daily life
- (2) To develop the ability to study the majors of each student by learning academic and technical Japanese
- (3) To develop the ability to learn Japanese independently.
- (4) To develop the ability to assimilate Japanese community and university through experiencing a variety of cultural and social programs

【授業キーワード】

elementary level, survival Japanese

【授業内容及び授業方法】

This class is for the foreign students who have no or some proficiency of Japanese. The students will study Hiragana & Katakana first, and will develop communicative ability through learning basic Japanese expressions.

【授業項目】

1. hiragana/katakana
2. Introducing oneself, Greetings
3. Daily expressions
4. Describing Daily activities
5. Time expressions
6. Possession, Existence
7. Agreeing and Disagreeing
8. Request, Permission, prohibition
9. Casual conversation
10. Expressions in Other Languages
11. Conditions, reverse conditions
12. Confirmation, Explanation, Information
13. Change of State
14. Opinions, Quotations
15. Exam

【教科書】

Basic Japanese for Students, HAKASE

【成績の評価方法と評価項目】

Quiz 30%
Exam 35% (2 times)

【担当教員】

栄 隆士・加納 満

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟226室(栄), 化学経営情報1号棟501室(加納)

【授業目的及び達成目標】

初級の上レベルの基礎的な日本語能力の養成を図る。

【授業キーワード】

話技能、聴技能、書技能、読技能

【授業内容及び授業方法】

- ・初級後半の文型、文法、語彙、文字に関する学習項目の導入、ドリル練習、グループ練習、ロールプレイ等による口頭練習
- ・読み教材を用いた読み練習と口頭練習
- ・聴解教材を用いた聴解練習

【授業項目】

1. 受身表現「～れる・られる」
2. 名詞化「動詞+の」
3. 原因・理由「～て、～で、～ので」
4. 不定表現「～かどうか」
5. 恩恵表現「～ていただく、～くださる、～てやる」
6. 目的表現「～ために、～のに」
7. 様態表現「～そう」
8. 述語様態表現「～すぎる、～やすい」
9. 条件表現「～場合、～のに」
10. アスペクト・推定表現「～ばかり、～はず」
11. 伝聞・様態表現「～そう、よう」
12. 使役表現
13. 尊敬表現
14. 謙譲表現
15. 期末試験

【教科書】

「みんなの日本語初級II」スリーエーネットワーク

【成績の評価方法と評価項目】

小テストと定期試験により成績を評価する。

【担当教員】

栄 隆士・加納 満

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟226室(栄), 化学経営情報1号棟501室(加納)

【授業目的及び達成目標】

初級の中レベルの基礎的な日本語能力の養成を図る。

【授業キーワード】

話技能、聴技能、書技能、読技能

【授業内容及び授業方法】

- ・初級の文型、文法、語彙に関する学習項目の導入、ドリル練習、ロールプレイ等による口頭練習
- ・読み教材を用いた読み練習と口頭練習
- ・聴解教材を用いた聴解練習

【授業項目】

1. 説明表現「～んだ」
2. 可能表現
3. 動作の様態・習慣表現「～ながら、～ている」
4. 理由表現「～し」
5. 状態表現「～ている」
6. 状態表現「～てある」
7. 意志表現「～う、～うと思っている、～つもり」
8. 助言「～たほうがいい」
9. 推測表現「～でしょう、～かもしれない」
10. 禁止表現
11. 引用表現「～と言っていた」
12. 継起・様態表現「～たあとで、～ないで」
13. 条件表現「～ば、なら」
14. 目的・習慣表現「～ように」
15. 期末試験

【教科書】

「みんなの日本語初級II」スリーエーネットワーク

【成績の評価方法と評価項目】

小テストと定期試験により成績を評価する。

【担当教員】

栄 隆士

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟226室(内線9853)

【授業目的及び達成目標】

主に基本的な読解力と聴解力の養成を目的とし、
日本語能力試験2、3級レベルを目標とする。

【授業キーワード】

漢字熟語、文末表現、言い換え、聴解ストラテジー、テキストの論理的
的分析

【授業内容及び授業方法】

日本語能力試験2、3級レベルの問題を主要な教材として、出題に関
わる知識を幅広く解説する。

【授業項目】

- 第1週 間違いやすい漢字及び漢字熟語の正確な読み方・書き方
- 第2週 同上
- 第3週 語彙の増強と文脈における適切な使い方
- 第4週 同上
- 第5週 敬語
- 第6週 敬語
- 第7週 様々な文末表現
- 第8週 様々な文末表現
- 第9週 同義文による表現力の充実
- 第10週 会話におけるキーワードの聴解
- 第11週 会話における主旨の聴解
- 第12週 同上
- 第13週 長文の読解
- 第14週 同上
- 第15週 同上

【教科書】

教員が教材を用意する

【成績の評価方法と評価項目】

小テスト6回(計60%)授業に参加する積極性(10%)、期末テスト(30%)

【担当教員】

栄 隆士

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟226室(内線9853)

【授業目的及び達成目標】

主に基本的な読解力と聴解力の養成を目的とし、
日本語能力試験2, 3級レベルを目標とする。

【授業キーワード】

漢字熟語、基本的な文法、言い換え、聴解ストラテジー、テキストの論理的
的分析

【授業内容及び授業方法】

日本語能力試験3級レベルの問題を主要な教材として、出題に関
わる知識を幅広く解説する。

【授業項目】

- 第1週 間違いやすい漢字及び漢字熟語の正確な読み方・書き方
- 第2週 同上
- 第3週 語彙の増強と文脈における適切な使い方
- 第4週 同上
- 第5週 助詞
- 第6週 副詞
- 第7週 「やりもらい」表現
- 第8週 様々な文末表現
- 第9週 様々な文末表現
- 第10週 同義文による表現力の充実
- 第11週 会話におけるキーワードの聴解
- 第12週 会話における主旨の聴解
- 第13週 同上
- 第14週 長文の読解
- 第15週 同上

【教科書】

教員が教材を用意する

【成績の評価方法と評価項目】

小テスト6回(計60%) 授業に参加する積極性(10%)、期末テスト(30%)

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟501室

【授業目的及び達成目標】

目的

科学技術関係の記事を用いて、中級後半レベルの日本語の総合的な運用能力の養成を行う。

達成目標

科学技術関係の文章(800字～1000字)の文章構造、文章の展開方法、文章内容が理解でき、内容について議論できること。

【授業キーワード】

読解能力、記述説明能力、口頭発表能力

【授業内容及び授業方法】

科学技術関係の記事の元テキストと振り仮名付きテキスト、単語表、ワークシートなどの配布資料を用いて、ペアワーク、グループワークなどの諸活動を行いながら授業を進めていく。

- ・各回の授業を上記の方法で、小テスト→科学技術関係の記事の読解作業という流れで行う。
- ・読解作業においては、ローカルな読みとグローバルな読みを行う。
- ・ローカルな読みでは、文字、語彙、文法項目の教授を行う。
- ・グローバルな読みでは、文章構造と文章の展開法の把握、キーとなる単語への注目、プラス評価語とマイナス評価語への注目などの読解ストラテジーの教授を行う。以上によりテキストに書かれた情報を既有知識により統合し、深い読みの処理を促進する。
- ・最終の授業で期末試験を実施する。
- ・Local and global readings are instructed.
- ・Local reading focused on Kanji, vocabulary, grammar.
- ・The following reading strategies are instructed: Global reading focused on the text organization, inter-sentential relationships and schema activation; Differentiating between fact and opinion, negative and positive tones; Incorporating prior knowledge into the information in the text.

【授業項目】

1. クラスガイダンス、能力確認
2. 「超高強度コンクリで新技術」
3. 「世界最強の金属ガラス」
4. 「鉛フリーはんだ付け」
5. 「人型跳ね起きロボット」
6. 「脳から信号、ロボットアーム操作」
7. 「ペット型ロボット」
8. 「めがねなし3D映像」
9. 「のぞき見を防ぐ画面用特殊フィルター」
10. 「トンネル内の排ガス浄化システム」
11. 「光で自在に曲がるプラスチック膜」
12. 「10マイクロ以下の水晶薄膜」
13. 「電磁波で封筒の禁止薬物を透視」
14. 「新ニッケル水素電池充電器」
15. 期末試験

【教科書】

なし。各回の授業で資料を配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

小テスト40%、期末試験60%の割合で成績評価を行う。

【留意事項】

中級の上レベルの日本語能力の学習者を対象とする。

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟501室

【授業目的及び達成目標】

目的

科学技術関係のテレビ番組を用いて、中級レベルの日本語の総合的な運用能力の養成を行う。

達成目標

科学技術関係の番組を理解し、その内容について話し合うことができることと、口頭発表ができること。

【授業キーワード】

記述説明能力、口頭発表能力

【授業内容及び授業方法】

視聴番組のスクリプト、単語表、ワークシートなどの配布資料を用いて、ペアワーク、グループワークなどの諸活動を行いながら授業を進めていく。

具体的には各回の授業を、視聴するビデオのトピックに関してグループで話し合い→ビデオ視聴→ワークシートの完成→ペアで視聴内容に関して話し合い→視聴内容に関して各自発表→質疑応答、という流れで行う。

【授業項目】

1. クラスガイダンス、能力確認
2. 「セキュリティーロボット」
3. 「薄くて曲がるピアノ」
4. 「録音できる紙」
5. 「太陽光発電」
6. 「アイカメラによる菓の事故防止」
7. 「ロボット手術」
8. 「運転中の携帯電話の危険度」
9. 「階段を上り下りする車いす」
10. 「ページをめくる福祉機器」
11. 「人口食道」
12. 「個人情報セキュリティー」
13. 「CO2ゼロ農業用ハウス」
14. 「リサイクル技術」
15. 期末試験

【教科書】

なし。資料を授業で配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

発表点50%、期末試験50%の割合で成績評価を行う。

【留意事項】

中級の中レベルの日本語能力の学習者を対象とする。

【担当教員】

永野 建二郎

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟508室

【授業目的及び達成目標】

大学の講義を聴いてノートを取ることができる日本語能力の習得をめざす。

【授業キーワード】

聞き取り、聴解、テープ、ディクテーション

【授業内容及び授業方法】

基本的な聴解のポイントの解説、聴解技術の習得訓練、そして実践的な場面を用いての練習を行う。

【授業項目】

1. 縮約形
2. 音変化(母音脱落等)
3. 文末表現
4. 音調

以上の項目を含む音声テープ、VTR等を視聴し、聴解技術の習得をはかる。

【教科書】

配布資料

【成績の評価方法と評価項目】

毎回の小テスト30%、課題提出20%、期末試験50%

【留意事項】

最初の授業に録音用カセットテープ(60分)を持参すること。

【担当教員】

永野 建二郎

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟508室

【授業目的及び達成目標】

大学の講義を聴いてノートを取ることができる日本語能力の習得をめざす。

【授業キーワード】

聞き取り、聴解、テープ、ディクテーション

【授業内容及び授業方法】

基本的な聴解のポイントの解説、聴解技術の習得訓練、そして実践的な場面を用いての練習を行う。
また、自ら取材をしたテープを元にレポートを作成し、発表する。

【授業項目】

実際の発話における縮約形、音変化(母音脱落等)、言い回し、音調などの正確な聴解力を身につける。

【教科書】

プリントを配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

出席80%、試験・課題提出20%

【留意事項】

最初の授業に録音用カセットテープ(60分)を持参すること。
受講者の構成によっては、内容を一部変更する場合がある。

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟501室

【授業目的及び達成目標】

目的

中級レベルの学習者を対象に、テレビドラマの視聴を通じて、日本語の総合的な運用能力の養成を行う。

達成目標

- ・テレビドラマで用いられる話し言葉が聞き取れ、理解できること。
- ・視聴した内容を表現できること。

【授業キーワード】

テレビドラマ、記述説明能力、口頭発表能力、話技能、聴技能、書技能

【授業内容及び授業方法】

- 1) ドラマを場面ごとに視聴し、その内容に関してペアまたはグループごとに話し合う。
- 2) その後、受講生全員を前にしてペアまたはグループの代表が一人で視聴した場面の説明を行う。
- 3) 説明後、その場で発表者の語彙、文法、発音に関して教官がチェックし、よりよい表現方法を説明する。もう一度視聴し直し、語句、文法、音変化に関して説明をする。
- 4) 最後に、視聴した場面のあらすじを書いて提出する。不適切なところをマークし、返却。それを更に自己訂正する。

【授業項目】

1. クラスガイダンス、能力確認(1回)
2. 各授業(13回)において、「授業内容及び方法」で述べた事項を実施する。各回において課題作文を提出。
3. 最後の授業で期末試験を行う(1回)。

【教科書】

視聴ビデオは授業で紹介する。

【成績の評価方法と評価項目】

課題50%、期末試験50%の割合で成績を評価する。

【留意事項】

中級レベルの日本語能力の学習者を対象とする。

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟501室

【授業目的及び達成目標】

1学期に引き続き中級レベルの学習者を対象に、テレビドラマの視聴を通じて、日本語の総合的な運用能力の養成を行う。

【授業キーワード】

テレビドラマ、記述説明能力、口頭発表能力、話技能、聴技能、書技能

【授業内容及び授業方法】

- 1) ドラマを場面ごとに視聴し、その内容に関してペアまたはグループごとに話し合う。
- 2) その後、受講生全員を前にしてペアまたはグループの代表が一人で視聴した場面の説明を行う。
- 3) 説明後、その場で発表者の語彙、文法、発音に関して教官がチェックし、よりよい表現方法を説明する。もう一度視聴し直し、語句、文法、音変化に関して説明をする。
- 4) 最後に、視聴した場面のあらすじを書いて提出する。不適切なところをマークし、返却。それを更に自己訂正する。

【授業項目】

1. クラスガイダンス、能力確認(1回)
2. 各授業(13回)において、「授業内容及び方法」で述べた事項を実施する。各回において課題作文を提出。
3. 最後の授業で期末試験を行う(1回)。

【教科書】

視聴ビデオは授業で紹介する。

【成績の評価方法と評価項目】

課題50%、期末試験50%の割合で成績を評価する。

【留意事項】

中級レベルの日本語能力の学習者を対象にする。

【担当教員】

松田 真希子

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟203室

【授業目的及び達成目標】

日本語能力中級レベルの留学生を対象とした中級日本語クラス。大学の研究活動で必要とされる日本語の中でも主に書技能の向上を目指す。

達成目標は(1)中上級への指標となる日本語能力試験2級レベルの語彙・文型の習得、(2)丁寧さを考慮したコミュニケーション能力の獲得、(3)日本語による研究計画書の作成方法の習得、である。

【授業キーワード】

作文 (composition), computer, 丁寧さ (politeness), 研究計画書作成 (writing a study plan)

【授業内容及び授業方法】

コンピュータを用いて作文指導を行う。毎回の授業で一つ作文を提出してもらい、必要に応じ、講義開始時に既習の文型・語彙の定着を確認する小テストを行う。

【授業項目】

1. 表記の方法 作文課題:「自己紹介文」
2. 文体
だ・である体、普通体・非丁寧体、作文課題:「所属学部の説明」
3. 丁寧体、敬語、作文課題:「教官へのe-mail・恋人へのe-mail」
4. 段落構成 作文課題:「科学技術の進歩」
5. テーマを述べる、作文課題:「私の国に特有なもの」
6. 理由・経過を述べる 作文課題:「〇〇に関する謝罪文」
7. 定義をする 作文課題:「専門用語の定義」
8. 判明していることを述べる 作文課題:「長岡技術科学大学〇〇事件」
9. 引用する 作文課題:「ゴミのリサイクル」
10. 問題点、解決策を述べる 作文課題:「知的所有権について」
11. 小論文の作成 (4回)
12. テーマ決定、アウトライン作成
13. 第一稿の修正
14. 第二稿の修正
15. 発表会

【教科書】

『留学生の日本語(2) 作文編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著
配布資料

【成績の評価方法と評価項目】

課課題提出80%、研究計画書20%

【担当教員】

松田 真希子

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟203室

【授業目的及び達成目標】

本講義は本学の教育目的の3(対話力養成)の中でも留学生の日本語能力のレベルアップを目的に行うものである。ここでは、大学の研究活動で必要とされる日本語の中でも主に文法能力の向上を目指す。具体的な達成目標は、1)日本語能力試験2級レベルで提示されている表現文型を全て使用表現あるいは理解表現化すること、2)1級レベルの表現文型の理解を広げること、の2点である。

【授業キーワード】

日本語文法 表現文型 中上級 日本語能力試験1級、2級

【授業内容及び授業方法】

一回につき20近い文型を導入し、必要に応じて使用表現化、理解表現化を促す練習を行う。
毎回定着を測る小テストを行う。

【授業項目】

1. 動作の対象/2. 起点・終点・限界・範囲/3. 時点・場面/4. 時間的同时性・時間的前後関係/5. 比較・最上級・対比/6. 判断の立場・評価の視点 /7. 基準/8. 逆接・譲歩/9. 原因・理由/10. 仮定条件・確定条件 /11. 不可能・可能・困難・容易/12. 経過/13. 誘い・勧め・注意・禁止/14. 主張・断定/15. まとめ/

【教科書】

日本語テスト ステップアップ問題集 中級』星野恵子・辻和子・村澤慶昭著 アルク

【参考書】

『どんな時どう使う日本語表現文型500』友松悦子、宮本 淳、和栗雅子

【成績の評価方法と評価項目】

毎回の小テスト 30% 定期テスト 70%

【担当教員】

松田 真希子

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟203室

【授業目的及び達成目標】

中上級の日本語総合演習。上級への橋渡しとして様々な話題(具体的・抽象的、得意分野・不得意分野)について正確に意見を交換し、小論が発表できるようになるための訓練を行う。

【授業キーワード】

総合演習、議論、発表、読解、作文

【授業内容及び授業方法】

日本語中級一中以上のレベルの学生を対象にする。
教科書『日本社会探検』をもとに(1)資料を読む、(2)資料内の表現について学ぶ、(3)関連資料の収集・理解、(4)自分の意見をまとめる、(5)トピックについて議論する
この(1)～(5)を満たす活動をおこなう。13～15回は受講学生が日本で生活する中で感じた疑問について調査したことを発表(20分程度)してもらおう。
500字以上の漢字をマスターしていることが必要。

【授業項目】

1. 時間 2. 家族 3. 物価 4. 集いとお酒 5. ダジャレ 6. 学生座談会 7. 娯楽 8. いじめ 9. 東京ウォッチング 10. 環境 11. 福祉 12. 温泉 13. 学生による発表1 14. 学生による発表2 15. 学生による発表3 まとめ

【教科書】

架谷真知子 佐藤恵美 二村直美 1998 『日本社会探検』スリーエーネットワーク

【成績の評価方法と評価項目】

毎回の課題提出60%、発表40%

【留意事項】

日本語能力試験2級合格程度の能力のある者の受講が望ましい。

【担当教員】

永野 建二郎

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟508室

【授業目的及び達成目標】

中上級レベルの総合的な演習。上級レベルへの橋渡しとして、4技能(聴く、読む、話す、書く)を総合的に鍛える。

【授業キーワード】

中上級、総合演習、資料収集、議論

【授業内容及び授業方法】

1.語彙の学習 2.ニュースを聞く 3.本文の読解 4.文法項目の学習 5.短作文
6.資料の収集 7.資料に基づいて自分の意見をまとめる 8.議論 10.まとめ

【授業項目】

<テーマ>

1. 理想のエネルギー—原子力—(世界と日本の原子力発電)
2. 顔をなくしたふるさと(地域の活性化)
3. カメラを持った語り部(AIDSと人権)
4. ほんものの豊かさ(日本の若者)

<学習する表現>

- ・～ざるを得ない ・～てからというもの ・～ばかりか ・～うものなら
- ・～てならない ・ついでに ・～といい、～といい ・～上で ～(た)きり
- ・～にしては ・～なり など

【教科書】

『テーマ別 上級で学ぶ日本語』(研究社)
そのほか補助プリントを使用する

【参考書】

講義中に指定する。

【成績の評価方法と評価項目】

毎回の小テスト30%、課題提出20%、期末試験50%

【留意事項】

日本語能力試験2級合格程度の能力のある者の受講が望ましい。

【担当教員】

栄 隆士

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟226室(内線9853)

【授業目的及び達成目標】

技術・科学と密接に関わる企業の経営戦略に関するテキストを読み、技術だけでなく、経営にも視野を広げて指導的技術者として生きるモチベーションを養う。もの作り企業の経営戦略の一端を理解できるようにする。

【授業キーワード】

技術・科学分野における語彙、表現
スラッシュ・リーディング
パラグラフ・レベルでのサマリー
テキスト構造の分析
テキストのサマリー
先進的な企業経営
ディスカッション

【授業内容及び授業方法】

身近で特徴のある中小企業(主に第二次産業)をとりあげ、技術と経営の関わりについて考える。新聞記事などを主な教材として、上記キーワードに沿って理解を促進していく。テキストのトピックについて、受講生のディスカッションも促す。

【授業項目】

第1週 日本的の企業経営の特徴
第2週 アウトドア用品、スノーピーク社(三条市)
第3週 テニスラケット、ヨネックス(越路町)
第4週 ヨーグルト、ヤスタヨーグルト(阿賀野市)
第5週 石油ヒーター、ダイニチ工業(白根市)
第6週 セキュリティー、セコム上信越(新潟市)
第7週 寝具製造、伊藤商店(新発田市)
第8週 歯科医療法人、徳真会(新潟市)
第9週 住宅設備、コロナ(三条市)
第10週 作業工具、トップ工業(三条市)
第11週 はさみ、諏訪田製作所(栄町)
第12週 清酒、吉乃川(長岡市)
第13週 ワイナリー、欧州ぶどう栽培研究所(巻町)
第14週 スーパー、原信(中之島町)
第15週 プレゼンテーション「技術を生かす経営戦略」

【教科書】

教員が教材を用意する。

【成績の評価方法と評価項目】

小テスト及び小レポート6回(50%)、授業における積極性(10%)、期末レポートとプレゼンテーション(30%)

【担当教員】

栄 隆士

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟226室(内線9853)

【授業目的及び達成目標】

技術・科学に関するテキストの読解力を養うとともに、技術開発へのモチベーションを高めることを目的とする。技術・科学開発に関わる日本語テキストが理解できるようにする。

【授業キーワード】

技術・科学分野における語彙・表現、スラッシュ・リーディング、パラグラフ・レベルでのサマリー、テキスト構造の分析、テキストのサマリー、ディスカッション、技術開発へのモチベーションの養成

【授業内容及び授業方法】

新技術実現に関わる日本語テキストを主な教材として、上記キーワードに沿って理解を促進していく。テキストのトピックについて、受講生のディスカッションも促す。

【授業項目】

- 第1週 技術開発に取り組む心構え
- 第2週 同上
- 第3週 交通技術
- 第4週 同上
- 第5週 土木技術
- 第6週 同上
- 第7週 通信技術
- 第8週 同上
- 第9週 医療技術
- 第10週 同上
- 第11週 ロボット技術
- 第12週 同上
- 第13週 環境問題に取り組む技術
- 第14週 同上
- 第15週 プレゼンテーション「技術開発に取り組む心構え」

【教科書】

教員が教材を用意する。

【成績の評価方法と評価項目】

小テストまたは小レポート5回(50%)、授業における積極性(20%)、期末レポートとプレゼンテーション(30%)

【担当教員】

永野 建二郎

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟508室

【授業目的及び達成目標】

- 1) ディベートによる情報収集・分析・討論を通じて日本の政治・社会・経済・文化に関する話題や日本と外国に関わる様々な問題に関して理解を深める。
- 2) 同時にディベートによって、客観的分析力・論理的思考力、相手の意見を聞く能力と日本語による討論能力の向上を達成する。

【授業キーワード】

ディベート、討論能力、分析能力、情報収集、文章作成

【授業内容及び授業方法】

まず、スピーチ練習を通じて制限時間内における自分自身の話すスピードと話せる量を把握する。これは人前における発表の基礎となるものである。次に、ディベートを構成するパート(立論、質問、反論)ごとに練習を行った後、グループごとに資料収集・分析作業を行い、ディベートによる討論を行う。

【授業項目】

1. スピーチの基礎(2回)
1分間スピーチ、3分間スピーチ
2. ディベートの基礎(2回)
ディベートとは、ディベートのルールと構成、立論・尋問・反駁の方法、審査方法、レポート作成法
3. ディベートによる討論(11回)
チーム編成、論題の設定、資料収集、分析・議論の組立、ディベートによる試合、評価、レポートの作成

【成績の評価方法と評価項目】

出席点20%、レポート80%の割合で成績を評価する。

【留意事項】

上級レベルの学習者を対象とする。

【担当教員】

松田 真希子

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟203室(内線9851)

【授業目的及び達成目標】

本講義は本学の教育目的の1「社会力養成」を目指し開講されるものである。具体的には日本の近代化・高度経済成長に関わった人物の紹介を通じて、日本の近代史および現代史に関する理解を深めると共に、これらの人物について理解し、議論することを通じて総合的な日本語能力の向上を目指す。また、日本理解を深めると同時に自国の文化、歴史に対する理解を深めることも目指す。

【授業キーワード】

日本理解、日本の近代化、高度経済成長、日本語総合演習、自文化理解

【授業内容及び授業方法】

毎回日本の近代化及び高度経済成長に貢献した人物を一名挙げ、その人物を紹介する文章を読む或いはビデオ鑑賞を行う。その文章やビデオの内容理解がなされたことを確認した上で、その人物の言動やその人物に関わった事件等について各自の視点で議論する。11回目からは学生が各自自身の興味に従って日本人を一名とりあげ、(1)人物史、(2)功績、(3)批評を行う。最後に自国で紹介したい人物を一名取り上げ、発表する。

【授業項目】

1. 岩倉具視 2. ジョン万次郎 3. 河井継之助 4. 森有礼 5. 福沢諭吉 6. 樋口一葉 7. 長嶋茂雄 8. 安藤百福 9. 盛田昭夫 10. 本田宗一郎 11. 学生による発表 12. 学生による発表 13. 学生による発表 14. 自国の人物紹介1 15. 自国の人物紹介2

【教科書】

三浦 昭、ワット・伊藤泰子(2001)『日本を知ろう—日本の近代化に関わった人々—』アルク

【参考書】

『プロジェクトX DVD』他

【成績の評価方法と評価項目】

ミニットカード30%、発表30%、期末試験40%

【留意事項】

日本語能力試験2級合格以上の能力のある者の受講が望ましい。